

(8) 川崎市立図書館のあゆみ

- 1927(昭和 2)年 4月 田島町が川崎市に編入され、川崎市立図書館となる(蔵書数 175冊)
(1923(大正12)年12月、川崎市立図書館の前身なる田島町立図書館が、橘樹郡田島尋常高等小学校内に設置。蔵書数 153冊)
- 1929(昭和 4)年 3月 高津町立図書館、橘樹郡高津町当時の町内有志が發起人となり町民の寄附により、高津尋常高等小学校内に設立
- 1937(昭和12)年 4月 川崎市第4次合併の際、川崎市に移管されて川崎市立高津図書館となる
- 1950(昭和25)年 8月 川崎市立図書館の名称を川崎市立中央図書館と改称。(蔵書数7,100冊)
- 1952(昭和27)年 5月 川崎市立稲田公民館図書室を開設。(蔵書数1,800冊)毎週木・日曜開館
- 1960(昭和35)年 4月 川崎市立中央図書館の名称を中原図書館と改称し開館。(蔵書数30,559冊)
- 1963(昭和38)年 10月 稲田図書館、登戸1796に開館
- 1965(昭和40)年 9月 高津図書館、新築開館
- 1971(昭和46)年 3月 川崎市社会教育委員会議、「これからの川崎市の図書館について(市民のくらしのなかの図書館)」を上申
- 1972(昭和47)年 4月 稲田図書館、政令指定都市施行に伴い市立多摩図書館と名称変更
- 1974(昭和49)年 7月 中原図書館の新館オープン、視覚障害者への対面朗読サービスを開始
- 1977(昭和52)年 3月 「川崎市立図書館閲覧規定」を廃止し、「川崎市立図書館館則」を制定
4月 中原図書館、自動車文庫運行開始
11月 多摩図書館を新築し、対面朗読室を設置。全館の開閉館時刻を統一
- 1980(昭和55)年 7月 川崎市立幸図書館、幸市民館との複合館(愛称:幸文化センター)として開館。全国にさきがけてコンピュータシステム(カナ処理)を導入
- 1985(昭和60)年 7月 宮前図書館、宮前市民館との複合館(愛称:宮前文化センター)、麻生図書館麻生市民館との複合館(愛称:麻生文化センター)として開館
自動車文庫配置を中原(川崎、幸、中原区域)、宮前(高津、宮前区域)、麻生(多摩、麻生区域)の3地域に分けた
- 1986(昭和61)年 3月 川崎市社教委員会議「川崎市における市民館及び図書館の運営のあり方について」答申
- 1988(昭和63)年 3月 高津図書館、高津区溝口1193に新築移転し、コンピュータを導入
- 1989(平成元)年11月 麻生図書館に図書館オンライン用ホストコンピュータを設置し、システム担当職員を配置
- 1990(平成 2)年11月 中原図書館にコンピュータ導入、オンライン開始。(全館オンライン完成)
- 1992(平成 4)年10月 田島分館、教育文化会館田島分館との複合館として開館(愛称:プラザ田島)
- 1993(平成 5)年 9月 多摩図書館菅閲覧所 開所
10月 橘分館、高津市民館橘分館との複合館として開館。(愛称:プラザ橘)
- 1995(平成 7)年 4月 川崎市立川崎図書館開館
11月 大師分館、教育文化会館大師分館との複合館として開館(愛称:プラザ大師)
- 1997(平成 9)年 1月 多摩図書館、多摩区総合庁舎内に移転、開館
- 1998(平成10)年 4月 川崎市立図書館条例を改正し、川崎市立図書館協議会を設ける旨記載
- 1999(平成11)年 4月 祝日開館を本格的開始
- 2000(平成12)年 9月 「読書のまち・かわさき」事業推進委員会設置
10月 川崎市中央図書館基本構想策定委員会設置
- 2002(平成14)年 4月 中原図書館に、奉仕第2係を新設
12月 新システム稼動。利用者用検索機による蔵書検索、予約、利用状況確認が可能に。個人貸出の貸出冊数を10冊、予約件数を10件までに制限を緩和
- 2003(平成15)年 1月 インターネットから利用者による蔵書検索、予約、利用状況確認が可能になった
2月 菅閲覧所新システムとオンライン化
5月 「かわさき図書館だより」創刊(年3回刊行)
6月 麻生図書館柿生分館が柿生小学校内に開館。麻生図書館柿生配本所廃止
7月 社会教育施設の通年開館によって、地区図書館、分館も毎月第1・第3以外の月曜日を開館する。日吉分館が、幸区日吉合同庁舎内にオープン

2004(平成16)年	4月	市内7つの地区図書館の業務のうち、返却カウンター、配架、予約巡回、書庫出納業務を委託化。宮前図書館自動車文庫運転業務を委託化
	11月	稲城市と相互貸借協定を締結
	12月	狛江市と相互貸借協定を締結
2005(平成17)年	3月	川崎、中原、宮前、麻生の4館で韓国・朝鮮語、中国語による検索システム稼働
	5月	「学校図書館有効活用事業」が小中学校15校でスタート。(生涯学習推進課事業)
	6月	図書館資料収集要綱等を改正
	10月	利用者用インターネット検索サービスを川崎、中原、麻生の3図書館で開始。(※幸、高津、宮前、多摩の4館は平成18年度からサービス開始)
2006(平成18)年	3月	eメールレファレンスサービスを試行的に開始。明治大学生田図書館と多摩区民の利用に関する覚書締結
	4月	貸出カウンター業務委託開始。図書館ホームページに調べもの相談コーナー設置
	12月	高津市民館、鷺沼・登戸行政サービスコーナーに図書返却ポストを設置
2007(平成19)年	3月	専修大学図書館と多摩区民の利用に関する覚書締結
	6月	新コンピュータシステムを総合評価方式により契約締結
	7月	地域への貸出を含めた学校図書館有効活用事業(所管：生涯学習推進課)がスタート
	10月	韓国・富川市の図書館との交流やシンポジウムを開催
2008(平成20)年	11月	和光大学図書館との相互利用協定開始
	1月	「川崎市成人の日を祝う集い」の会場で図書館利用促進キャンペーンを実施
	6月	図書館総合システムへの更新のため6月16日～6月30日休館。図書館システム担当事務室を中原図書館に移転
	7月	新コンピュータシステム稼働開始(7月1日)、インターネットやOPACから貸出延長や予約確認、取消等が可能になったほか、ケインズネット経由で小・中学校図書室との連携を促進
	8月	地域への貸出を含めた学校図書館有効活用事業拡大(市立小学校6校、中学校1校)
	1月	ホームページやOPACから貸出カードの事前申込やパスワード発行が可能となったほか予約受付メール、返却期限通知メール配信を開始。長期延滞者に対する予約受付停止を開始。貸出申込方法に関し川崎市立図書館規則の一部を改正
2009(平成21)年	4月	第1月曜日を閉館。地区館の貸出・返却カウンター業務等委託を更新
	5月	有馬・野川生涯学習支援施設(愛称「アリーノ」)に設置された地域図書室での市立図書館資料の受取・返却を開始
	10月	「川崎フロンターレと本を読もう！」(21年度川崎市イメージアップ認定事業)開始。選手による推薦図書リーフレット『キックオフ!“読書のまちかわさき”』、特製しおりの発行・配布、読書啓発ポスター掲示、等々力競技場での「ブックランドTodoroki」の開催
	11月	全蔵書を対象とするICタグ貼付(4カ年計画の1年目)を高津図書館から開始
	12月	宮前図書館・自動車文庫の車両買換え
2010(平成22)年	1月	幸図書館でICタグ貼付を実施。市議会図書室との相互協力開始。新車両での自動車文庫巡回開始。フロンターレ選手が参加するカルタ大会開催
	2月～3月	新中原図書館についてのパブリックコメント実施
	3月	各地区館にフロンターレ・コーナー設置(フロンターレ寄贈本、推薦本展示等)明治大学図書館と相互利用協定を締結。自動車文庫岡上小学校ポイント廃止
	4月	全館の個人貸出冊数総数が600万冊、中原が100万冊を突破。明治大学生田図書館の館内利用、生田・駿河台・和泉3館の資料利用が可能に。自動車文庫「はるひ野」ポイント新設

	5月	図書館協議会の答申「川崎としての特色のある図書館のあり方」の報告書刊行
	6月	ICタグ貼付（4カ年計画の2年目）多摩図書館、菅閲覧所（6月）、宮前図書館（2月）で実施
	9月	市立中学校図書館全蔵書のデータ入力開始（年度内終了）
	10月	フロンターレとの連携（2年目）選手推薦本冊子vol.2、しおり配布。オリジナル紙芝居披露、ブックランドTodoroki開催。（2年目）
2011(平成23)年	2月	新着図書通知メール開始（関心のあるキーワード、著者、ジャンル等で自動配信）
	3月	和光大学附属梅根記念図書・情報館との協定に基づく相互貸借サービス開始。川崎駅地下街の行政サービスコーナーに返却ポスト新設。東日本大震災により全館で3月14日に臨時休館、15日から4月1日まで開館時間を短縮
	5月	東日本大震災の市内避難者に対する貸出サービス開始
	8月	被災地新聞『福島民報』・『福島民友』閲覧開始。ICタグ貼付（4カ年計画の3年目）柿生（8月）日吉・橘分館（9月）、麻生図書館（10月）、川崎図書館（3月）
	9月	「映像のまち・かわさき」連携事業として川崎市内ロケパネル展、ブックガイド配布ほか
	10月	幸図書館電動書庫リニューアル工事。
	11月	「ブックランドTodoroki」開催（3年目）。9都県市図書館企画の共同事業について合意
	12月	自動車文庫・東有馬ポイント廃止
2012(平成24)年	1月	町田市と川崎市との相互利用協定締結（施行は4月から）。自動車文庫・犬蔵ポイント新設
	3月	返却の長期延滞に対する新利用制限開始（一定期間の貸出・予約受付停止・予約取り消し）図書館法改正に伴う図書館設置条例の改正
	4月	地区館の貸出・返却カウンター業務等委託を更新
	6月	大師分館・田島分館蔵書にICタグ貼付
	9月	9都県市合同企画「自慢したい風景」展示
	11月	宮前図書館電動書庫リニューアル工事。自動車文庫・長尾台ポイント廃止
	12月	川崎市立図書館設置条例改正（中原図書館移転。）自動車文庫・東高根ポイント新設
2013(平成25)年	1月	中原図書館新館移転のため休館（蔵書にICタグ貼付、移転作業、開館準備。予約本受取用臨時窓口開設（2月末まで）
	3月	日本映画大学図書館と相互利用協定締結（4月開始）。27日に新中原図書館開館式典・内覧会
	4月	新中原図書館一般供用開始（自動予約棚・自動貸出機・BDS（無断持出防止装置）・自動化書庫の導入）。巡回車2台体制へ増車
	6月	日本女子大学西生田図書館と多摩区民の利用に関する覚書締結。新中原図書館開館記念「阿刀田高講演会～読書はおいしいぞ」開催
	9月	市立図書館全館のコンピュータ機器更新。市立図書館地区館への自動貸出機・BDSの導入完了。麻生図書館電動書庫リニューアル工事
	11月	授業支援図書セット貸出開始
	12月	自動車文庫 有馬4丁目ポイント・鷺沼ポイント廃止
2014(平成26)年	1月	自動車文庫 有馬9丁目ポイント新設
	4月	有効期限が過ぎた貸出カードの予約制限開始
	10月	国立国会図書館歴史的音源配信サービス利用開始
	11月	高津図書館電動書庫リニューアル工事
2015(平成27)年	1月	自動車文庫 五力田ポイント・細山ポイント新設
	3月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービス利用開始
	4月	新刊図書資料について、各館での見計らいを廃止し、中原図書館での集中選定を開始
2016(平成28)年	4月	自動車文庫 図書館・分館で借りた本の返却受付開始
	5月	川崎市立図書館協議会廃止
	6月	川崎市社会教育委員会議図書館専門部会設置

	10月	幸図書館空調等改修工事のため平成29年5月まで利用休止、臨時窓口開設
2017(平成29)年	2月	横浜市と川崎市との相互利用協定締結（施行は3月から）
	11月	高津図書館改修工事
2018(平成30)年	2月	高津図書館改修工事
	3月	スマートフォン専用ホームページの開設。自動車文庫 久末ポイント廃止、蟹ヶ谷ポイント新設
	9月	市立図書館全館のコンピュータ機器更新、9月10日～9月23日休館 (中原図書館は9月10日(月)から30日(日)休館)
2019(平成31)年	1月	高津図書館改修工事
	3月	図書館ホームページのリニューアル
2019(令和元)年	6月	「今後の市民館・図書館のあり方」について、庁内検討会議を開始
	7月	JR武蔵中原駅構内に図書返却ボックスを新設
	10月	台風19号の影響により、12日(土)全日、13日(日)午前を全館臨時休館
2020(令和2)年	2月	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響により、イベント開催の中止
	3月	2日から、閲覧席の使用禁止、新聞・雑誌の閲覧等、滞在型利用を制限
	4月	国の緊急事態宣言に伴い、4月11日(土)～5月26日(火)休館
	5月	27～29日まで全館の閉館時間を午後5時として、段階的にサービスを再開
	6月	10日から書架からの貸出の再開
	7月	1日から閲覧席の利用(密を避けて半数程度)、新聞・雑誌の閲覧の再開
	8月	1日からJR鹿島田駅ペDESTリアンデッキ上に図書返却ボックスを新設
2021(令和3)年	3月	16日から図書館ホームページ上で、「予約かご」の利用を開始。 「今後の市民館・図書館のあり方」を策定。
	4月	川崎市在住者を対象として、「有料宅配サービス」の試行を開始。 4月20日～9月30日、まん延防止等重点措置期間のため中原図書館については20時閉館。東急田園都市線宮前平駅に図書返却ボックスを設置、利用を開始。
	6月	28日 多摩区役所生田出張所内に図書返却ボックスを設置、利用を開始
	9月	図書館の開館時間中においても、感染予防を兼ねて返却ポスト等の利用を可能にした。
	10月	緊急事態宣言解除に伴い、中原図書館の平日閉館時間を通常通り21時に戻す。
2022(令和4)年	3月	「読書のまち・かわさき 子ども読書活動推進計画」(第4次)策定。
	4月	川崎市在住・在勤・在学者への「有料宅配サービス」の本格実施。
	8月	市民館・図書館の管理運営の考え方を策定。 図書資料と同様にCDの延長を可能とした。
	12月	小田急多摩線栗平駅改札前に図書返却ボックスを設置、利用を開始した。
2023(令和5)年	3月	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更等に伴い、段階的に閲覧席の席数を戻した。おはなし会についてはマスク着用は個人の判断に基づくことを受けて、各館の状況をふまえて開催した。 21日 「かわさき電子図書館」を開設。試行実施開始。(新型コロナウイルス対応交付金を活用)



川崎市立図書館のイメージキャラクター
つばきくとつばきちゃん